

令和7年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

パフォーマンステストを見通した単元構想による学習指導と学習評価の改善

☐ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動について、児童や地域の実態を踏まえた目的・場面・状況等の工夫や中間指導の普及が見られる。

②R6全国学力・学習状況調査の児童質問調査において、「英語の勉強が好きか」や「授業の内容はよく分かるか」の項目は、全国平均を上回っており、外国語学習に意欲的な児童が多いと捉えることができる。

①単元内に設定されている評価計画が、必要以上に評価場面が設定されていたり、領域や観点の評価時期の位置付けに課題が見られたりする。

②R5英語教育実施状況調査「話すこと」のパフォーマンステストの状況において、実施の割合は増加したが、100%には至っていない。
(R4:89.7% → R5:91.5%)

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①小学校英語専科教員（ふくしま外国語教育推進リーダー）による公開授業等により、「言語活動を通した指導」についての理解が広がったと考えられる。

②R6全国学力・学習状況調査の学校質問調査において、外国語教育の研修の取組状況に関する項目で、全国を4ポイント上回っており、授業改善につながったと考えられる。

①学習評価への理解が十分とは言えないことで、評価に係る材料を集めることに意識が向けられ、児童の学習改善や教師の指導改善にまで至っていないと考えられる。

②各校においてCAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定が進んだこと、研修テーマとして「ゴールを意識した単元計画」を掲げたことで一定の理解は進んだが、質的改善に取り組む必要があると考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業」による小中連携の推進

・小学校英語専科教員の公開授業や協議会等に中学校英語担当教員を交え研修を行うことで、指導法や指導内容についての理解を深め授業改善を図るとともに、校種間の円滑な学びの接続につなげる。

・学習者用デジタル教科書やICTの効果的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

①②「英語担当教員エンパワーメント研修」による、年間を通した研修における授業力向上

・研修者自身が課題を設定し、年間を通じて、主体的・対話的・協働的な研修を実施する。

スタートアップ講座

・自身の課題把握
・授業改善のポイント
・研修計画書の提出

ブラッシュアップ講座

・授業実践シート提出
・グループ協議
・授業実践計画の改善

ラップアップ講座

・実践事例共有
・相互ふり返し
・研修報告書の提出

・研修内で単元及び評価計画の作成を課題とする。
※ 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組については、要件を満たす場合は採用試験において加点措置をし、資格取得者の増加を図っている。

令和7年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

「内容や時間のまとまり」を見通した単元構想による学習指導と学習評価の改善

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：38.2％⇒R7：48.0％）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R5 英語教育実施状況調査「英語力を有すると思われる生徒」の判断する根拠を示したことでCAN-DOに基づく自校でのパフォーマンステストの結果による判断件数が増加した。(R5:59⇒R6:114)
②パフォーマンス評価に係る課題等が明確化された。(計画を日常的に作成する上での課題)

未だ改善が必要な点

①評価規準の明確化が課題である。特に「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点でそれぞれに必要な要素が十分示されていない例が散見される。
②パフォーマンステストの作成及び実施に課題がある。(R5実施割合:79.5%)

2. 要因分析

①MEXCBT搭載のパフォーマンステストの周知、生徒の英語力判断の方法等について周知を徹底したことが要因と考えられる。
②研修会等を通して、パフォーマンステストの作成や実施に係る負担等について確認し、その解決案について協議できたことが要因と考えられる。

①各観点の評価規準に必要な要素について理解が十分でないことや、研修等では活動や指導内容を重視し、評価について取り上げる機会が少なかったことが要因と考えられる。
②パフォーマンステストは、「思考・判断・表現」の力を総合的に評価するために有効だが、作成方法の不明瞭さや計画作成、テスト実施のための時間確保などが要因となり実施が困難なことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「英語担当教員エンパワーメント研修」
教師の授業力向上を図るため、教師が自身の課題を設定し、主体的・対話的・協働的に取り組む年間を通じた研修を実施する。
 - ・年間を通じた研修における授業力向上
 - ・単元を見通した指導計画の作成及び授業での実践と改善
- ②ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業
小学校英語専科教員の公開授業や協議会を中学校英語担当員を交えて行い、指導法や指導内容についての理解を深め、授業改善を図るとともに、校種間の円滑な接続につなげる。
 - ・中学校英語担当教員を交えた公開授業や協議会
- ①令和7年度AIの活用による英語教育強化事業
AIを活用した学習を導入し、個別に自己の興味関心に応じた実現を練習することで、人同士の言語活動の充実を図る。
 - ・AI英語モデル校での授業実践と公開授業
 - ・AI英語活用リーダーによるAI活用のスキルアップと情報発信
- ②小中高連携推進事業
小中高の学びの連続性を高め、パフォーマンステストを中心とした授業改善に取り組む。
 - ・ワーキンググループでパフォーマンステストの作成、評価
 - ・公開授業による研究成果の普及

令和 7 年度 福島県 英語教育改善プラン

A I を活用した授業実践による言語活動の充実とパフォーマンステストを活用した英語による発信力の強化

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 45.9% B1以上 18.0% ⇒ R7 : A2以上 53.5% B1以上 23%)

○パフォーマンステストをS&W両方実施した学校の割合
(R6: 36.8% ⇒ R7: 80%以上)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和 6 年度英語教育実施状況調査より
①ICTの活用状況率については全国平均を上回っている。
(R6:89.7% 全国 87.3%)
②CEFR A2レベルの英語力を有する生徒数が増加した。(R5:40.6% R6:45.9%)

①生徒の英語力
CEFR A2レベル相当以上については、引き続き改善の余地がある。
②ICTの活用について、地域、学校間、担当者によって利用率に差が見られる。

2. 要因分析

①英語担当教員エンパワーメント研修において、教師の英語力向上に関する研修や英語外部模擬試験を実施したことが改善につながったと考えられる。
②パフォーマンステストを位置づけた年間指導計画を作成し、筆記試験以外による英語力の測定が、数値の改善につながったと考えられる。

①生徒の英語力を適切に測れているか、検討の余地がある。パフォーマンステストや、CAN-DOリストの活用にも課題があると考えられる。
②めまぐるしく変化する I C T や A I の発達に教員側が追いついていない、あるいはリテラシーの格差が考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①英語教員エンパワーメント研修・AIの活用による英語教育強化事業
教員の授業デザイン力の向上のため、AI英語活用リーダー育成による、AIを活用した授業実践事例の研究と伝達研修の推進を行い、教員全体のICTリテラシーのさらなる向上を図る。
②小中高連携事業
小中高合同のワーキンググループによるパフォーマンステスト事例研究および相互授業参観等を実施する。また、その事例を広く公開することで、パフォーマンステストの幅を広げ、実施校の増加を図る。
①外部試験の可否のみで英語力を測るのではなく、パフォーマンステストをさらに推進し、CAN-DOリストに基づいた評価方法についての支援を行う。必要に応じて、評価方法の見直しも行う。本県ではライティングにおけるパフォーマンステストの実施率が低いため、エンパワーメント研修における研修重点事項とする。
②教員のICTリテラシーの向上推進
ICT活用を苦手とする教員への負荷の軽減のため、A I 英語活用リーダーによる伝達研修等により、特に精神的なハードルを下げ、教員間のリテラシーの格差の縮小に努める。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

福島県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	45	40.6	45	45.9	53.5		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	22	17.3	22	18	23		24		25		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	55	43.4	55	34.1	60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	42.9	70	36.8	80		85		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98.8	100		100		100		100	
		公表(%)	50	33.3	50		55		60		65	
		達成状況の把握(%)	55	54.3	55		60		65		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	65	66.6	67	71.1	69		71		73		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	55	29.9	55	25.6	56		57		58		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	45	35.8	45	38.2	48		54		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	60.2	75		77		80		82		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	79.5	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	96.2	100		100		100		100	
		公表(%)	45	38.8	45		60		80		100	
		達成状況の把握(%)	80	70.3	80		90		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	40	31.4	40	32.4	42		45		50		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	57.9	80		80		85		90		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90	88.5	100		100		100		100	
		公表(%)	50	33.1	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	80	73.2	90		100		100		100	